

かんがえよう

自分 のこと・みんな のこと

Vol.2

特集

LGBTQ+の問題を 自分事として 捉えてほしい

差別や偏見のない社会を目指して

INTERVIEW

NPO法人 LGBTの家族と友人をつなぐ会 東京理事 **三輪 美和子**さん

令和5年12月
狛江市

LGBTQ+の問題を自分事として捉えてほしい —差別や偏見のない社会を目指して—……P2～ P5
昨年度開催したスマイリーキクチさん講演会のご報告…………… P6 ～ P7
稲垣えみ子さん講演会のお知らせ・小・中学校の人権に関する取組……………P8

狛江市は、「人権を尊重しみんなが生きやすい狛江をつくる基本条例」に基づき、市民一人ひとりが個人として大切にされ、誰もがより生きやすい、安心して暮らせる平和なまち、お互いに支え合い助け合うやさしいまちを目指します。

誰もがお互いの違いを認め合う社会を目指して

LGBTQ+の問題を自分事として捉えてほしい

LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーなど、性的マイノリティの人々）の家族と友人などによる会である、NPO法人 LGBTの家族と友人をつなぐ会 東京理事の三輪美和子さんにお話を伺いました。



Q

質問 1

御法人の概要や活動内容について教えてください。



回答 1 LGBTの家族と友人をつなぐ会は、子どもからカミングアウトを受けた親たちが、2006年、神戸にて立ち上げました。

当時はLGBTという言葉すら世間には見当たらず、親たちのセクシュアリティの知識は皆無に等しく、子どもから性的指向や性自認について教えられ、性は多様であることを知ったそうです。知識が増すにつれ、いまだ社会に根付いているLGBTへの差別や偏見が子どもたちを苦しめていると気づき、そのような価値観を変え、誰もがお互いの違いを認め合う社会を築こうではないか、と設立しました。現在では、神戸以外に東京、福岡、三重へと広がっています。

活動としては、家族、当事者、支援者が集う交流会開催、行政、教育機関、企業等への講師派遣、講演会企画等啓発活動、全国各地で行われるレインボーパレード等イベントへの参加、パブリックコメント等提言も随時行っています。





質問 2

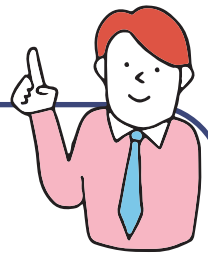
今まさに悩んでいる、困っている性的マイノリティ当事者の方はどのような方法で御法人と関わることができますか。また、当事者の方はどのような活動に参加できますか。



回答 2 ホームページをご覧くださいと、LGBTQ+についての各種情報（基礎知識、基礎用語、お勧め書籍・映画など）をご覧くださいませし、各拠点でのセミナー、交流会情報も載っておりますので、そちらを見てご参加ください。またSNSにて各イベント情報も発信しています。



LGBTQ+当事者及びご家族からのご相談、お問い合わせも電話、メールにて受けています。
tokyo@lgbt-family.or.jp 090-9876-2423
(電話は水・土・日対応。つながらない時はSMS)



質問 3

これまで活動を続けている中で大変だったこと、工夫してきたことはどんなことですか。また、性的マイノリティの方々が直面する困りごとは何ですか。

回答 3 活動拠点を確保できていないので、交流会開催時には公共施設を毎回お借りしています。LGBTQ+センターのような施設が各地にあれば、定期的に活動ができるのではないかと思います。また、毎回新規の方がご相談、交流にいらっしゃるのには必要とされているからだと思いますが、スタッフとして参加される親御さんはなかなかいらっしゃいません。そこが性的マイノリティの家族問題の難しいところだと思います。



性的マイノリティの困りごとは多岐に渡っています。社会制度が男女二元論、異性愛主義で構築されているため、それに当てはまらない彼らにとっては、日常生活全般で忍従を強いられています。しかも相変わらず社会の偏見、差別が根強いので、異議申し立てが難しく、大半の当事者は我慢して暮らさざるを得ません。

性的マイノリティの一番の困りごとは自分を偽って生きる、その息苦しさかと思います。

Q

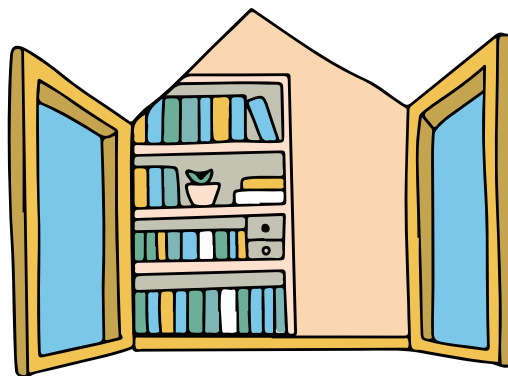
質問 4

性的マイノリティではない人ができることはありますか。



回答 4 「無知は罪である」という言葉がありますが、正しい理解がないとSNSで拡散されているフェイクニュースに惑わされます。まずは書籍やセミナーでLGBTQ+の知識を高めること。一番有効なのは当事者の友人を得ることで理解が増すと思います。その有効な方法は支援団体が行っている誰もが参加できる交流会やLGBTQ+のイベントに参加してみることに。そのような行動が性的マイノリティへの理解を深め、マジョリティ側が自身の特権に気づき、マイノリティの置かれている状況に思いを馳せることができるようになると思います。そこからがスタートで、Ally的な行動ができるようになるでしょう。

※“Ally”（アライ）とは…LGBTQ+当事者の方々に共感し、寄り添いたいと考え、支援する人のこと。「味方」や「仲間」、「同盟」を意味する英単語「ally」が由来となっており、LGBTQ+の方々の社会的地位向上や権利擁護、平等の達成のための運動などに協働してくれる人を指す。



Q

質問 5

活動を通して多くの方に知ってほしいことはどんなことですか。

回答 5 LGBTQ+の問題を当事者＝他人事として考えるのではなく、自分事として捉えてほしい。そのため世界では、SOGI（sexual orientation 性的指向&gender identity 性自認/性同一性）という概念でセクシュアリティの問題を提起しています。マジョリティ自身の性的指向、性自認についてあらためて考えていくことで、性的マイノリティの方々を生きづらくさせているのはマジョリティ側の無理解、偏見であることがわかってきます。



Q
質問 6

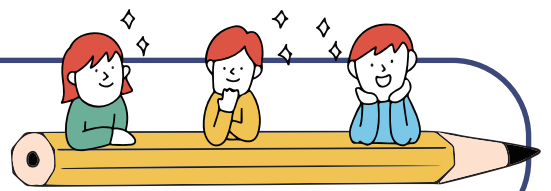
LGBTQ+への差別や偏見のない社会に向けて、
今後の目標を教えてください。



回答6 日本には千差万別という言葉がありますが、セクシュアリティは100人いれば100通り、独りとして同じセクシュアリティはありません。大枠は同じように見えたとしても個々に違うのが人間です。セクシュアリティのカテゴリー理解ではなく、一人ひとりがかけがえのない命を持った存在として尊重し合う意識を持つことが、差別や偏見のない社会につながると思います。溝を埋めるべく、交流し理解し合えるような居場所づくりをこれからも進めていきたいと思っています。

Q
質問 7

この啓発誌を読んでいる方への
メッセージがあればお願いします。



回答7 自分自身の当たり前を疑ってみてください。それは小さい頃からの刷り込みに過ぎないからです。好奇心の翼を広げて新たな場所に出向き、新しい出会いを体験してみると、未知の価値観に触れることでしょう。それは皆さん一人ひとりにとって新たな人生の扉を開くチャンスです。その鍵がLGBTQ+あるいはSOGIなのです。



狛江市等の人権相談一覧



狛江市等の人権相談一覧



SNS (LINE) 人権相談 (法務省)



Tokyo LGBT相談
専門LINE相談 (東京都)



Tokyo LGBT相談
専門電話相談 (東京都)

TEL



WEB



テーマ インターネットと人との **かかわり合い**

～ withコロナの時代、SNSの中傷と対策を考える～

■講演会概要：タレントのスマイリーキクチさんによる「インターネットと人とのかかわり合い～ withコロナの時代、SNSの中傷と対策を考える～」と題した講演会を令和5年2月11日、狛江市防災センターで開催しました。

ネット上で事実無根の出来事を書き込まれ、20年以上も誹謗中傷を受けてきた自らの経験を事例に、ネットのトラブルに巻き込まれた時の具体的な対処方法や、「実名で書けないことは匿名でも書き込まない。投稿する前に一度立ち止まって考えること。」など、SNSとの正しい付き合い方について、ご講演いただきました。



講師プロフィール

スマイリーキクチさん

1993年より漫才コンビ「ナイトシフト」として1年半活動後、コンビ解散。現在は笑顔とおだやかな口調ながら鋭い切り口のトークの漫談スタイルでテレビやラジオで活躍中。タレントとして活躍する傍ら、2011年に発刊した著書『突然、僕は殺人犯にされた』～ネット中傷被害を受けた10年間～が話題となり、ネットの誹謗・中傷の経験をもとに、ネット犯罪の恐怖やSNSの危険性、トラブル対処法などを全国の講演で伝えている。

● 突然の誹謗中傷

講師のスマイリーキクチさんは1999年、インターネットの掲示板に過去に起きた殺人事件の共犯者だという事実無根の書き込みをされた。その後に誹謗中傷や脅迫、仕事先への嫌がらせなどが続き、本人が否定し続けても中傷は止まず、殺害予告の書き込みもあった。2009年に脅迫などの容疑で数人が立件されたが、今でも中傷が続いている。

講演会ではこれらの経験を時系列で説明。中傷が始まったころは、対象は自身だったが、次第に身近な人に危害を加えることを予告する書き込みが目立ち、2008年になって警察に相談した。しかし、最初は警察でも「しばらく様子を見ましょう」など、正面から対応してもらえなかったことから「誰かに中傷されるより、助けを求めても助けてくれない方が怖いと感じた」という。

● どのように対処すべきか

その後、インターネットに詳しい警察官に巡り合い、本格的に捜査が始まり、立件につながった。その際も中傷が書き込まれた掲示板の該当部分を印刷し、段ボールで何箱にもなる「証拠」を提出したからこそ警察が動いてくれたという。もし被害に遭った場合には、「乱暴な言葉で反論するのは駄目。司法の場で挑発したと判断されて不

利になるし、相手がどんな人物か分からないので身の安全を守るためでもある」と対処法を説明。また、警察に相談する際は、書き込みの画像など被害の証拠を事前に集めておくことが大切だという。

SNSとの付き合い方

警察の捜査によって立件された人の多くがデマを本気で信じていて正義感でやっていたことから、「インターネットの情報が本当に正しいか、疑う感性を持たないと加害者になる」と強調。多くの人が気軽に利用するSNSでは誤った情報を拡散させることもあり、現在は誰でも発信者になれるが、軽い気持ちで発信したことが他人を傷つける可能性があることと、また、自身にも重い責任が伴うことや自身の未来を狭めてしまうことを知ってほしい、と訴えた。

ほかにも、SNSで受けた中傷がきっかけで自らの命を絶った人のケースを紹介。「スマホ一つで人が死んでしまうこともある」と大人は子どもに使い方や危険性をしっかり教えるべきだとした。最後に「誹謗中傷をなくしたい」とし、SNSとの付き合い方として、「実名で書けないことは匿名でも書き込まない」、「スマホのコントロールよりも感情のコントロールが大切」と訴えた。

アンケートの意見

言葉の力、色々な角度から考えることができました。ネット社会をどう生きていくのか、今後の社会を担っていく子どもたちにしっかりと学ぶ機会を作っていく必要があると思いました。

実体験に基づいたお話を伺えて、よりインターネットによる人権や人とのかかわりについて考えさせられ、自身のスマホとの向き合い方についても振り返りができました。

スマイリーキクチさんの件は存じておりましたが、ご本人からのお話が聞けたのは説得力がありました。壮絶な戦いだったんですね。ネットだけでなく情報を取捨選択する力は大切なのだと改めて感じました。



インターネットにおける人権侵害に関する相談など



【法務省】子どもの人権SOS eメール



【東京都人権プラザ】
「インターネットにおける人権侵害」に関するSNS (LINE) 相談
相談予約電話：03-6722-0124



【違法・有害情報相談センター】
インターネット上での違法・有害情報に関する相談窓口



令和5年度

人権啓発 講演会

ある幸せ、ない幸せ ～自分で決める暮らし方～

日時

令和6年2月10日(土)

開演：午前10時30分～正午(開場：午前10時)

事前予約制 受付開始：令和6年1月9日(火)正午～

場所

狛江市防災センター 4階会議室

講師 稲垣えみ子さん

一橋大学卒業後、朝日新聞社に入社。大阪本社社会部、「週刊朝日」編集部などを経て論説委員、編集委員をつとめ、東日本大震災をきっかけに始めた超節電生活を綴ったコラムが話題となり「報道ステーション」「情熱大陸」などのテレビ番組に出演。50歳で早期退職し、ハッピーに下っていく人生を実践中。



令和5年度 市内小・中学校での人権に関する取組

●「人権の花」運動

- 小学生が協力し合いながら花を育て、その成長を観察することによって「相手の立場を考え行動する心や思いやりの心を育てる」ことなど、人権尊重の意識を身につけてもらうことを目的に実施しています。

(実施校) 狛江第五小学校、狛江第六小学校

●人権メッセージ

(実施校) 狛江第一小学校、狛江第三小学校

(市代表作品) 狛江第一小学校6年 吉川 志保子さん

狛江第三小学校6年 本田 透己さん

- 9/9に開催された「第30回子どもたちからの人権メッセージ発表会」で市代表として発表しました。

●全国中学生人権作文コンテスト東京都大会

(実施校) 狛江第四中学校 (市代表作品) 3年 馬場 夏輝さん

- 市の代表作品として「令和5年度全国中学生人権作文コンテスト東京都大会」に提出しました。



各種人権相談



狛江市等の
人権相談一覧



みんなの人権110番(人権一般)
TEL:0570-003-110(法務省)



人権相談(一般相談・法律相談)
(東京都人権プラザ)

発行

狛江市企画財政部政策室市民協働推進担当

〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5 TEL:3430-1111 FAX:3430-6870